

町民との対話をどう進めるのか

問 八百津排水路も含め、今後行政としてインフラ整備などさまざまな改革、改善が必要だと思う。町民目線で対話、意見などを聞いて進められると思うが、そういう機会を是非作り、町民の要望、実直に説明する場等について執行部の考えを伺う。

答 (金子町長) 平成29年3月、第5次八百津町総合計画策定の際、平成28年5月12日から11月4日までの間、当時の林議長を含め町民30名の皆様と各審議会、部会を開催し、延べ131名の参加をいただきました。

審議会・部会では要望や意見交換を活発に行い、当町の向こう8年間の羅針盤でもある総合計画・基本計画の策定にお力添えをいただきました。今後、毎年行政サイドとして実施計画の見直しを行ってまいります。

また、町民の方どなたでも参加できる通称「まち会」。これは八百津町のまちづくりについて町民が「自分たちで考え自分たちで実行して行けるよう」を合い言葉に行政主導で立ち上げたものであり、平成27年8月6日から平成29年11月の間、現在も続いています。計27回開催されています。

毎回20名ほどですが、延べ637

名が八百津町の未来について、「こんな町にしたい」「ここをこうしたい」等、高校生から高齢者まで八百津町で生まれ育った方から、移住して来られた方までさまざまな方々に参加していただき、「わたしたちのまちやおつ」をつくるために町民と職員が一丸となって、一緒になって本音で語り合う機会を設けています。

そのほか、各自治会要望、個別案件につきましても、担当課がそれぞれの担当課で要望された自治会に出向き、ご意見を丁寧にお聞きしながら迅速に対応しています。

私も平成28年1月28日就任以来、約300件余りの各種団体からの会合など、すべてお断りすることなく出席させていただいております。

対話、意見交換の場を持たせていただき、ご要望等は承っておりますので、このことにつきましては今後も続けたいと思っています。

各課の連携をどう考えているのか

問 安全・防災の観点からみると、防災安全室長を筆頭に、また色々と普段から町民の安心・安全を守っていたらいい消防団の方々からの情報も聞き入れながら、総括してよりよいまちづくりがもう一步でき

るのではないかと。課同士の連携をもう少し強化し、さらに軽減できるところは軽減し、よい方向につながるわせていくという筋道がさらに必要になるのではないかと思うが、考えを伺いたい。

答 (金子町長) 防災・安全の観点の一例からから申し上げますが、一旦災害が起きると、被災者からの通報や消防団からの通報、災害調査員による調査報告が防災安全室へ入ってきます。その後、建設課に情報が入った現場へ向かい、現場の現地調査を行って、浸水被害や土砂崩れなど被災状況に応じた対策を早急に行います。

議員ご指摘のとおり、各課同士で事業の大小にかかわらず事業推進には連携・共有は欠かすことができませんので、この点につきましても引き続き徹底してまいります。

黒岩千泰 議員

Q1 杉原千畝「世界の記憶」について

事業費は幾らかかったのか

問 杉原千畝記念事業を始めから、今までの事業費は幾らかかっているのか伺う。

答 (山内タウンプロモーション室長) 「世界の記憶」事業に関する3年間の経費は合計2754万9969円となっています。

問 シカゴへ行かれてるが、何人で幾らの費用がかかっているのか。

答 (山内タウンプロモーション室長) シカゴへの出張経費につきましては、航空賃、ホテル代などの旅費として、延べ3人分で89万5千円となっています。

責任をどう考えているのか

問 残念ながら認定されなかつたが、このような費用を使い責任をどのように考えているのか。

答 (山内タウンプロモーション室長) 杉原リスト「世界の記憶」への登録については、まことに残念な結果となりました。町民の皆様方の温かいご支援を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

登録こそできませんでしたが、この3年間、世界の記憶登録事業を行ったことで千畝氏の人道的行為と貴重な記録を本町から全世界へ発信でき、知られるようになったことは間違いありません。

世界中のユダヤコミュニティから応援メッセージをいただいたり、本町とカウナス市、岐阜県とリトアニア国を千畝氏がつなぎ、交流が始まり、県により「岐阜・リトアニア友好協会」も設立される予定となっています。本町においては、八百津小学校の創作劇「イエフダーと七つの灯」や町民によるきらりの会を主体とした朗読劇「千畝と幸子命のビザ」の公演、中学生海外派遣事業も本年度からアメリカからリトアニアへ変わりました。

世界の記憶登録事業を進めたことで、千畝氏を通して世界中の方々とつながることができました。人道教育が推進できたと、交流人口が増えたこと、このことは胸を張ることができると成果であると考えています。

千畝氏の人道的な行為を次の世代へと受け継いでいくことは、本町の使命であり、千畝氏の功績とともに命の尊さ、平和の大



杉原千畝記念館